

令和 8 年 第 2 1 回 定例 公安 委員会 会議 録

開 催 日 時 令和 8 年 7 月 1 6 日（木）午前 1 1 時 8 分～午後 2 時 4 0 分

開 催 場 所 警察本部

第 1 定例会議

1 開催時間 午後 1 時 3 0 分～午後 2 時 2 0 分

2 出席者

公安委員会 久本委員長 笠田委員 杉原委員

警察本部	梅田警察本部長	渡邊警務部長	渡邊首席監察官
	山柝生活安全部長	細田刑事部長	宮田交通部長
	永島警備部長	山田警察学校長	永井情報通信部長
	濱部米子警察署長	生田警務部参事官	

（事務局等～柳原公安委員会補佐室長、総務課員）

3 議題事項

4 報告事項

- 鳥取県議会 令和 8 年 6 月定例会の結果（警務部）
- サイバー対処能力検定の実施状況（生活安全部）
- 「全日本トライアスロン皆生大会」の開催（交通部）
- 警備部、警察署合同による災害警備訓練の実施（警備部）
- 米子警察署の取組（米子警察署）

（ 1 ） 鳥取県議会 令和 8 年 6 月定例会の結果（警務部）

警察本部

鳥取県議会令和8年6月定例会は、令和8年6月8日に開会し、22日間の会期を終え、6月29日に閉会した。6月定例会における警察関連の議案については、「令和8年度鳥取県一般会計補正予算（第1号）」、「財産を無償で譲渡すること（米子市道用地）」について可決された。

警察に対する質問、答弁の状況について、代表質問では、鳥取県議会自由民主党の安田由毅議員から「県民の安全・安心を守るための決意」について質問が、さらに「防犯カメラの活用」について追及があり、警察本部長が答弁した。

一般質問では、無所属の前住孝行議員から「街頭防犯カメラ設置補助金等の取組」について、無所属の玉木裕一議員から「県内の防犯意識向上」について、鳥取県議会自由民主党の鳥羽喜一議員から「県警ヘリの活用」について、鳥取県議会自由民主党の鹿島功議員から「交通渋滞の緩和と事故防止」について、鳥取県議会自由民主党の山本暁子議員から「防犯カメラ設置補助金活用のニーズ」について、公明党鳥取県議会議員団の前原茂議員から「自転車の違反取締状況の評価と交通安全対策」について、また、追及として「自転車の通行区分のルール周知」、「自転車の幼児用座席の年齢制限についての国要望」について、鳥取県議会自由民主党の東田義博議員から「特殊詐欺や空き巣の発生状況と対策」について、鳥取県議会民主と通りの坂野経三郎議員から「特殊詐欺被害への対策」、「自転車ルール周知のための広報・啓発」について質問があり、それぞれ警察本部長が答弁した。

地域県土警察常任委員会では、「山岳遭難防止対策の推進について」、「令和8年夏の交通安全県民運動の実施について」の合計2件の報告を行った。

委員

今回の定例会では、多くの議員の皆様から御質問をいただいた。昨今、全国各地で凶悪犯罪が発生しており、鳥取県内でも、検挙には至ったものの、強盗事件の発生があった。不安に思っておられる県民の方も多い中で、防犯カメラの必要性について、県議会の場で議論していただき、プライバシーの問題など理解を深めていただけたのではないかなと思う。自転車の交通反則通告制度についても、まだまだ浸透が図れていない部分もあるが、各質問に対し、警察本部長から適切な御答弁をしていただいた。県議会議員の皆さんの思いをしっかりと受け止めていただき、県民の安全安心のため、引き続きしっかりとした取組をお願いする。

委員

6月定例会で多くの質問をいただいた中で、県警察独自の防犯カメラ設置と自治組織に対する防犯カメラ設置補助費用についての内容があった。県内で防犯カメラの設置を進めることにより、県民の安全安心な暮らしにつながっていくと思うので、引き続き推進をお願いしたい。

委員

県議会6月定例会において、警察行政に関する様々な意見と議論がなされた。

県民の不安材料である防犯面や特殊詐欺に関すること、自転車の交通違反に対する交通反則通告制度の導入など、県民の不安と関心がある内容についての質問がなされたことを受け止めつつ、今後も県民の安全と安心確保のため、警察行政が適切かつ効果的に運営されるよう、引き続きお願いする。

(2) サイバー対処能力検定の実施状況（生活安全部）

警察本部

サイバー対処能力検定は、職員のサイバー対処能力向上のため、平成24年度から実施しているものである。令和7年3月に策定した、鳥取県警察サイバー空間の脅威への対処に関する人材育成計画においても、警察官の中級検定取得を柱として、人材育成に取り組んでいるところである。

令和8年度第1回目の検定において、初級は受検した27人全員が合格、中級は190人中48人が合格した。中級検定の合格率は約25パーセントと、やや難易度が高いが、検定後の警察官の合格者の総数は378人となり、昨年春に策定した人材育成計画の、令和11年度末までの取得目標である350人を超える結果となった。既に中級の取得目標は超えているが、引き続きサイバー人材を育成するため、次の取組を実施することとしている。1つ目は、サイバー対処能力検定の複数回実施による受検機会の付与である。昨年と同様、今年度も検定を年3回実施することとしており、第2回目は9月17日、第3回目は来年1月中旬に実施する予定である。受検機会を複数回とすることで、検定取得者数を増やしていきたいと考えている。また、この度の検定から、受験者が検定後に自己の得点を確認できるようにしている。合格者、不合格者とも、現時点での自己の実力を把握し、今後の学習の参考としてもらうために変更したものである。2つ目は、中級取得者の資格更新制度に伴うeラーニングの実施についてであり、昨年度から中級取得者に対する資格更新制度を導入した。検定取得後の翌年度から3年度以内に、検定の再合格、サイバー関連専科の修了若しくはeラーニングの受講のうち、1つ以上の要件を満たさなければ資格は失効となる。サイバー対処能力の維持とスキルアップのため、各所属に中級更新対象者の一覧表を送付し、eラーニングの受講を促すこととしている。3つ目は、警察庁が主催するサイバー対処能力検定上級の実施についてである。今年度は10月7日に実施が予定されており、例年全国で合格率が5パーセント程度の非常に難解な検定となるが、対象となる中級検定合格者に積極的な受検を促し、今年度、受験者から合格者がでることを期待している。

高度化、複雑化、多岐化するサイバー空間に対処するためには、県警察において、高度な対処能力を有する人材を継続的に育成することが求められるところ、引き続き県警察全体の対処能力向上を目指し、サイバー対処能力検定の取得をはじめとする、人材育成計画に基づく取組の効果的かつ着実な推進に努めていきたいと考えている。

委員

サイバー犯罪は県民の身近なところに潜んでおり、警察職員のサイバー対処能力の向上は欠かせないところである。サイバー犯罪が日進月歩で悪質巧妙化する中、知識の積み上げは必須であり、サイバー対処能力検定を通して、職員のレベルアップを図っていただくよう、引き続きお願いする。上級検定の実施が予定されているとのことであり、合格を期待している。

委員

全警察職員の初級検定の取得率は１００パーセントに近い数字となっているが、中級検定は２８パーセントとなっており、難易度の高さを感じる。上級検定の取得は、更に難易度が高いが、合格を目指して頑張ってもらいたい。

委員

サイバー空間を巡る脅威は高度化、巧妙化しており、サイバー対処能力検定を通じた知識と技能の底上げが大変重要なことだと思っている。今後も人材育成や実務能力の向上をお願いする。

（３）「全日本トライアスロン皆生大会」の開催（交通部）

警察本部

全日本トライアスロン皆生大会は今回で４４回目を迎えた。総距離１７８キロメートルのＡタイプのコースに加え、昨年度から総距離１４１キロメートルのＢタイプのコースが新設された。Ｂタイプコースは、年々参加者が減少していることや、選手側から最後まで完走したいという意見を踏まえたものである。

本大会は、本年７月１９日午前７時から競技を開始し、午後９時４０分に競技を終了する。ＢタイプコースはＡタイプコースのスタートから１０分後にスタートし、午後７時３０分に終了する。Ａタイプコースは昨年と基本的に同様であるが、ランの距離が４０キロから５キロ短縮した３５キロとなる。参加予定者は、Ａタイプコースが８３６人、Ｂタイプコースが２０４人、３人一組でそれぞれの種目を分担するリレーの部は７９組２３７人が出場する。

次に安全対策についてであるが、主催者側がホームページ、新聞紙面等で事前広報を行っており、警備員約２００人、ボランティア約２８００人の体制で行う。警察の体制は５２人であり、主にバイクコースにおける対策を行い、幅員が狭く、選手の安全確保対策が必要な区間を車両通行止め規制とする。一時停止規制箇所のうち、米子警察署管内１７か所、琴浦大山警察署管内７か所、黒坂警察署管内３か所の計２７か所で一時停止の効力を停止し、選手を優先して通行させる。その間は、警備員の誘導による安全対策を行う。信号交差点のうち、米子警察署管内１３か所、琴浦大山警察署管内３か所の計１６か所で警察官が信号操作し、青

色に固定するか警察官が手信号などにより選手を優先させて通行させる。一時停止の効力停止時間と信号交差点の対応は、Aタイプコースの先頭通過後おおむね1時間としており、その後の選手は一時停止規制と信号機に従い走行する。ランについては、信号に従って歩道を走行する。これらの交通規制を守らない場合は、失格あるいは次回の参加停止のペナルティが科せられることとなっている。

以上のような対策を講ずるが、令和5年度の大会ではバイクの選手と一般車両との衝突事故が発生している。バイク選手は軽傷であったが、警察からは主催者に対し、参加者や県民への指導を徹底するよう要請しており、主催者側は選手に対し、誓約書の作成、開会式、競技説明会への出席義務を求めており、また、一昨年から参加者向けのY o u T u b e動画を作成し、バイクは一般車両として走行し、交通法規を守ること、警備員の合図に従うこと及びコース上の危険箇所の明示など注意喚起を行っており、同種事故の発生がないようにしている。

これらの事故の発生がないよう、万全の交通安全対策を期すとともに、配置警察官に対しても安全対策を徹底するように指示している。

委員

トライアスロン発祥の地である米子の大会ということで、歴史も深く、鳥取県を代表する大きなイベントの一つである。大会の警備は広範囲に渡り、交差点の数も相当であり、少しの気の緩みが事故につながり兼ねないことから、参加者に交通ルールの遵守を徹底させるなど、しっかりと対策をお願いする。また、近年は猛暑、酷暑となっており、過酷な環境である。熱中症対策を抜かりなく行っていただき、大会警備に当たっていただきたい。トライアスロン皆生大会の成功は、無事故で終わることであり、その中心的な役割が県警察にあると思うので、よろしく願います。

委員

暑い中の大会開催で注意散漫になる可能性があるので、熱中症対策を行った上で、参加者には交通ルールをしっかりと遵守していただき、事故のない安全な大会としていただきたい。

委員

トライアスロン皆生大会が無事に行われるよう、しっかりと体制をとっていただいており、感謝している。大会警備に従事する警察官の安全確保を頭に置きながら、令和5年の接触事故から学んだことを教訓に、安全な大会となるよう警備に努めてもらいたい。

(4) 警備部、警察署合同による災害警備訓練の実施（警備部）

警察本部

この度、不動産賃貸事業等を展開する大東建託から解体予定のアパートの提供を受け、警備部、警察署合同による地震を想定した災害警備訓練を実施した。大東建託グループは、自治体や地域の団体の活動に従業員が参加して、地域の活性化を目指すCSR活動と言われる社会貢献活動に取り組んでいる。その活動の一例として、地域警察署への解体现場提供、防災教育活動として、子どもたちに安心できる住まいや暮らしの実現に向けた防災意識の向上に取り組んでいることから、近隣に所在する幼稚園児を訓練に招いたものである。

訓練は、7月6日に、鳥取市市場3丁目地内の大東建託賃貸アパートで行った。訓練参加者は、警備部機動隊15人、管区機動隊鳥取小隊9人、米子小隊7人の合計31人が参加した。訓練内容は、午前中に個別訓練としてチェーンソー、エンジンカッターなどを使用したブリーチング、いわゆる壁を破壊する要領を確認した。その後、地震によりアパート2階に取り残された要救助者を、はしごを使って救助する訓練を実施した。その訓練状況を、園児の安全性を確保した上で見学してもらい、また、レスキュー車、パトカー、大型輸送車への乗車体験を行った。午後からは、同じく個別訓練として、床面に対するブリーチング要領を確認した後、ブラインド方式による救助訓練を行った。想定は、アパート1階に取り残された要救助者と接触するため、2班を編制し、1班は隣室の床面からコンクリート等を破壊し、床下から侵入する班とし、もう1班は、2階の部屋から床面を破壊して天井から侵入するといった、あえて難解な方法を試みた。しかし、機動隊員をしてドリル、ハンマーなどを駆使して破壊を試みるも、分厚いコンクリート、鉄筋コンクリートの枠組みが行く手を阻み、制限時間の1時間では侵入することができなかった。訓練を経験した機動隊員からは、アパート等の構造を知らなかったため、今後の救助活動の参考としたいとの意見があった。これまで、実際のアパート等を使用しての災害警備訓練を行ったことがなく、実際に床下などを破壊していく中で、構造的に行く手を阻む障害があることを知り、回避すべき救助方法を確認することができ、意義のある訓練となった。訓練状況はNHK、TSK、読売新聞の取材を受け、当日のニュース放映、翌日の新聞記事に掲載された。

委員

実際の災害が発生した際に建物からの救出が想定されるが、大東建託様から頑丈な建物を提供していただき、訓練が行えたことは有益であった。この訓練を教訓に、実際の現場があれば経験を生かしていただきたい。

委員

これまで訓練用に作られた現場の破壊はあったと思うが、実際の建物はなかなか経験することができないことから、非常に良い訓練をさせていただいたと思う。地震等、様々な災害現場が想定されるが、今後も積極的に訓練を実施していただき、経験を積んでもらいたい。

委員

この様な訓練を、現場の提供を受けて実施できることに感謝申し上げたい。災害時の円滑な体制確認ができる実戦的な訓練を重ね、組織の災害時の対応能力向上をお願いしたい。また、地域の方にも見ていただくことで、警察への理解につながると思うことから、引き続き訓練を重ねてもらいたい。

(5) 米子警察署の取組（米子警察署）

米子警察署

米子警察署長から、警察の在るべき姿の確立に向けた取組、セルフチェックによるハラスメントの意識啓発について説明がなされた。

委員

全国警察で様々な非違事案が発生している中、米子警察署として、地に足のついた取組をされていることを報告していただいた。警察の在るべき姿という大きな命題に向かって、しっかりと進めていただいております、有り難く思う。地道な活動が大きな成果につながることから、引き続き取組をお願いする。

委員

警察の在るべき姿の確立に向け、様々な取組を行っていただいている。中でも、若手職員による小集団検討では、仕事に対する使命感について、話し合いながら理解していく内容となっており、大変すばらしいと感じた。また、ワンポイント実務教養として、朝礼に併せて幅広い知識を得るための教養や、緊張感のある3分間スピーチなど、知識と経験値を身につけることで、職員が更にレベルアップしていく良い取組だと思う。引き続き頑張ってもらいたい。

委員

警察官としての倫理観や責任感を醸成するための良い取組だと思う。警察官の在るべき姿やハラスメントについては、今まで何度も教養を受けられていると思うが、重ねて確認していくことが大切だと思う。今の時代に必要な、教養、取組を進めていただきたい。

第2 その他の公安委員会活動

1 意見の聴取

運転免許課から、道路交通法に基づく意見の聴取3件について、事案概要、処分理由、当事者の陳述要旨、基本量定等を詳細に聴取し量定を決定した。

2 聴聞

運転免許課から、道路交通法に基づく聴聞 2 件について、事案概要、処分理由、当事者の陳述要旨、基本量定等を詳細に聴取し量定を決定した。

3 事前説明

「全日本トライアスロン皆生大会」の開催

4 報告事項

- ・ 鳥取県風俗環境浄化協会の事業計画について
- ・ 自転車の運転により人を死傷させる行為等の処罰に関する法律等の施行
- ・ 令和 8 年度第 1 四半期における公用車事故賠償案件報告

5 決裁

- ・ 審査請求事案の審理結果について
- ・ 公安委員会宛て苦情に対する調査結果

6 公安委員会委員間の事前検討・協議等

7 公安委員会補佐室からの事務連絡等

公安委員会補佐室から当面の行事予定等について確認と説明があり、了承した。